

令和3年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

本年度は、コロナ禍ではあったものの、体育学習発表会や音楽学習発表会、学校公開等を開催し、児童の活躍や教職員の取組等を見ることができた。また、昨年の11月には1年延期されていた創立120周年記念式典を開催することができた。学校は、学力向上を中心として、「知・徳・体」のそれぞれにおいて教育活動の充実を図っており評価できる。今後も、発達段階に応じて、それぞれの教育活動が滞りなく行われることを期待する。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待について」

重点的な取組事項－1 学力向上

達成度◎（達成）は妥当と評価する。

学力向上アクションプランに従って、学力向上のための様々な取組を行っている。特に、区の学力調査の結果は、目標値を通過した児童が令和元年度と比較して、大幅に上昇しており、十分に評価できる。また、ICTを活用した授業作りやオンライン学習、校内研究「プログラミング的思考を取り入れた指導の工夫」の授業づくりやタブレット端末の活用、持ち帰りにも取り組んでいる。

今後も、「新しい生活様式」を基本に、社会情勢に柔軟に対応しながらICTを活用した学校作りに取り組むと共に、保護者・地域による丸付けボランティア、新聞を活用しての授業、朝学習や放課後補充教室の実施など、基礎学力の定着に向けての取組を確実にいき、読書活動の充実にも注力することで、児童の学力の向上に努力してほしい。

重点的な取組事項－2 教師の指導力向上

達成度○（おおむね達成）は妥当と評価する。

働き方改革などの取組により、時間的な制約があるなか、主任教諭による校内研修会や教科指導専門員による若手教員への授業観察や事後指導、全職員による足立スタンダードに則った授業展開の取組等、全職員が指導力の向上を図っていかうとしたことは評価に値する。研修時間の確保や研修の成果を学校全体に還元することで、さらに指導力の向上に努めてほしい。

重点的な取組事項－3 児童の心身の育成の充実

達成度○（おおむね達成）は妥当と評価する。

学校評価のアンケートにおいて、「学校は、児童の心の育成に努めている。」の割合が昨年度から4.6%上がっている。保護者の自由意見欄を見ても、「安心して行かせられる環境であると信頼している。」とあり、肯定的意見の割合が上がったことを裏付けている。「分からない。」と回答した割合は、昨年度より1.4%下がっているもののほぼ変わらない。本年度は、様々な行事を実施し、子供たちの様子を見ることができたものの、学校内の様子や他の学年の行事を見ることができなかった事が考えられる。

学校は1年を通して感染症予防対策に追われた日々だったと思うが、大きな事故やクラスター発生等もなく、安全にすごせたことは、日頃から全教職員が子供たちの様子を把握し教育活動に活かしていることの表れである。また、豊かな心の醸成、健康な身体の成長、特別支援教育の推進についても、様々な取組を行うことにより、成果となって表れている。

3 その他

本年度から「花畑ビューティフル・スクール運動」を実施し、子供たちが「自分たちで居心地のよい学校作り」を目指した。廊下を静かに歩いてほしいという願いから、4年生が折り鶴を廊下の中央に並べ、「思いやりゾーン」として取り組んだ。今後も保護者・地域・学校が連携を図り「人任せ」にしない指導を行うことにより、児童の心身の育成の充実を図るとともに、保護者に対しての評価も向上するよう期待している。